

平成14年度第4回岡山市総合政策審議会都市・交通部会の主な意見

- 1 日 時 平成15年1月30日(木)午後1時30分～3時30分
2 場 所 ほっとプラザ大供3階第3研修室
3 出席者 委員14名中10名出席
岡山市：山内都市整備局長、広瀬まちづくり担当局長、高橋局次長、
池上都市開発部長、青木公園緑地部長、小寺土木部長、
青山西部新拠点まちづくり推進本部長 ほか
事務局：高橋参事 ほか

4 傍聴者 1名

5 会議概要

- (1) 傍聴の許可
(2) 議題の説明、質疑応答及び事務連絡

6 主な意見

1 保存樹の指定について

- 住吉宮の景観を形成しているのは、1本の樹木だけでなく、周辺にある樹木のすべてが群となって一つの景観を形成しているというのだという視点をもって、固まりとして保存していくことも考えてほしい。
- 指定を受けた保存樹を十分に市民に周知するため、広報紙に連載するなどの方法を考えてほしい。

【保存樹指定候補については指定することで承認】

2 岡山駅西口広場及び東西連絡自由通路の整備について

- 市民からの意見の集め方として、パブリックコメントの実施は有益な方法ではあるが、双方向でもっと広く一般の人々から意見を聴く機会を設けることができなかったのだろうか。
- 他の事案と較べれば、本件にかかるパブリックコメントへの応募数は多かったのではないか。
- 施設が完成した後でのバリアフリーの徹底はたいへんな費用もかかる。計画段階で細心の注意を払ってバリアフリーというものを考えてほしい。
- 長い通路には、高齢者等が一寸休憩できるベンチなどが必要ではないか。
- 荷物をもって通路を歩く人のために、スーパーマーケットにあるようなカートを貸し出したらどうか。
- 広場レイアウトのうち、一般車の乗降場、駐車場の部分を工夫して利用者の利便性、安全性が確保できれば、もっと完成度は高くなる。
- 一般車乗降場から駅が少しでも近くなり、また屋根など設置して利用者が濡れずに駅まで行ければもっと良い。
- 機能的な面だけを考えたら、健常者と障害者の間に空間的なバリアを立ててしまうことになってしまう。このようなバリアを崩し、しかも機能的で和みのあるような岡山の玄関にしてほしい。
- JRに対してさらなる協力を求め、利用者の利便性向上に努めるべきである。

3 岡山市住宅マスタープランについて

- 民間でできることは基本的に民間に任せ、民間がやれないようなことなどを行政がやっていくという棲み分けが必要である。